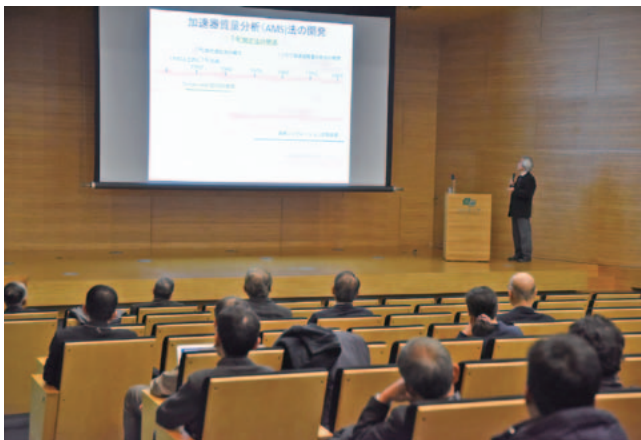


第28回宇宙地球環境研究所年代測定研究部シンポジウムを開催

●宇宙地球環境研究所

宇宙地球環境研究所は、1月28日(木)、29日(金)の両日、野依記念学術交流館において、第28回宇宙地球環境研究所年代測定研究部シンポジウムを開催しました。同研究部は宇宙地球環境研究所基盤研究部門の1つであり、旧年代測定総合研究センターを核として昨年10月に創設され、地球誕生から現代にいたる年代範囲をカバーする年代学研究や



シンポジウムの様子

環境動態に関する共同研究などを推進しています。そして、同シンポジウムは、1年間の活動を広く報告するために、旧年代測定総合研究センターシンポジウムを引き継いで開催されました。

シンポジウムでは、同センターの今年度の活動を概観した後に、新研究創成経費研究の成果として、「 ^{10}Be を用いた表面照射年代測定による大規模水循環変動期特定の試み」と題した報告がありました。また、共同利用の成果として、本学のほか、大学、博物館、研究所や民間団体、企業などの研究者、院生によって、環境学、地質学、考古学や文化財科学など幅広い分野に関する発表が行われました。

招待講演では、北海道大学の友陽子博士から地球上の初期の生命活動について、金沢大学の松木 篤博士からPM2.5の季節変動についての紹介がありました。シンポジウムの最後には、中村俊夫同研究所教授により「加速器質量分析技術の発展と応用研究の拡大」と題した特別学術講演があり、年代測定資料研究センターに始まり、年代測定総合研究センターを経て現在に至る歩みを加速器質量分析技術の発展とともに振り返りました。2日間にわたり、一般の方々を含めて熱心な討論が行われました。

企画展「名古屋のセンパイ！ 明治編」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館では、10月21日(水)から1月30日(土)までの間、企画展「名古屋のセンパイ！ 明治編」を開催しました。これは、名古屋大学全学同窓会による大学支援事業の助成金により収集した「名古屋大学の先輩」コレクションを展示公開するものです。このコレクションは、1871年の仮病院・仮医学校設立(名古屋大学創基)か



展示会の様子

ら、1947年の名古屋帝国大学が名古屋大学へと改称されるまでの、本学の前身校に在学、在職した著名人に関連する、入手が困難になりつつある古書も含めた図書、文書、写真、絵葉書、地図等によるものです。

今回の展示では、江戸末期から明治時代、仮病院・仮医学校から愛知県立医学専門学校・愛知病院までの史料を明治編として展示公開しました。1871年に制定された名大病院の前身『名古屋縣病院規則』には「寄宿病人 一日一人 銀 拾五銭」、「通い病人の定 診察料一切差出に不及事」などとあります。名大のお雇い外国人教師 老烈 (Roretz) が山形県の済生館時代に講義した『微毒學』は新発見史料です。日本最初の『醫療器械圖譜』、愛知病院長であった後藤新平が板垣退助を治療した『岐阜凶報板垣君遭難顛末』など、多彩な資料は多くの来館者の関心を集めました。

また、会期中の1月27日(水)には、山内一信本学名誉教授を招き「尾張医学の大先輩 伊藤圭介ーその医学と本草学」と題する特別講演会を開催しました。幕末から明治という大変革の時代に科学という新風を吹き込んだ伊藤圭介の業績を、膨大な史料を丹念に駆使して読み解き、市民ら約40名の知的好奇心を大いに刺激しました。